

# エー A ジー G ファイブ 5 だより

在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業 (<https://ag-5.jp>)



## 補習授業校とAG5 —「補習授業校におけるバイリンガル・バイカルチュラル人材育成のためのプログラム開発」に参加して—

AG5運営指導委員・海外子女教育振興財団 教育相談員 三井 知之

AG5プロジェクトは、私が2018年に文部科学省のシニア派遣でプリンストン補習授業校（日本語学校）に赴任する前年度から立ち上がりました。私は本格始動しているAG5と共にプリンストンの補習授業校に着任したのです。学校運営にあたり、AG5の情報を活用することで、先生方の学習指導のレポーターが広がりました。様々な危機をみんなの知恵と工夫で乗り越え、世界の補習授業校の連携がさらに深まっています。

### AG5と共に着任

在外教育施設には三回目の派遣で、以前は二回とも日本人学校への派遣でした。今回も日本人学校になるのではないかと考えていましたが「補習授業校」と知らされ、早く慣れつつかりと学校経営をしていくことが最優先の課題となりました。

子供たちは先生方の指導を受け、日曜日という限られた時間の中で一生懸命に学んでいました。普段の現地校での生活では味わえない日本語での語らいや遊びを通して、生活言語のレベルも切磋琢磨しながら体得していく様子が分かりました。そうした中、日々の文化的行事を行うのも一つの使命ですが、学校の一番の役割は子供たちに学力を身に付けさせることです。

ほぼ月一回の教員研修会が位置付けられていましたので、「子供たちが『分かる授業』『楽しい授業』の展開を目指して、先ずは実践ということ、私の赴任期間の二年から三年の間に全教員が研究授業を行えるように計画を立てました。

全ての学年が単学級であったため、低、中、高の分科会を設定し組織的に取り組めるようにしました。同僚同士で考えを出し合うことで、一時

間という限られた時間の中でいかに子供たちにねらいをつかませ、楽しく身に付けさせるかについて議論を深めることができました。この時、AG5の情報も活用していききました。

先生方に、私は先ず、「教員にとって授業は命。研究と修養は教師にとつて不可欠のものである。常に使命感をもって、子供たちの『分かた笑顔』が学校にあふれるようにするため、さらに互いに研鑽し、指導力を高める必要がある。（中略）実のある効率的な校内研修を通して、私たち自身が主体的に学ぶ姿勢で研修に向かえるようにしよう」という思いを示しました。その上で、「今あるもの、今までのものは活用する。無駄な時間は使わない。先行研究を活用する。事前の準備は分科会で責任をもつて十分に深め、その通りにならなくても主張はすること。授業はメリハリが大事。重点的に扱うところ、また軽く流すところも必要。理論はもちろん大切だが、明日に使える具体的な手法や実践力も大切。限られた時間で、児童・生徒の主体性や表現力をどう伸ばしていくか。指導案には、それが書かれた『備考欄や留意点』が一番大切。それにこだわろう（抜粋）」と話しました。

ここで重要なのは、「AG5のよ

うな先行研究、先進的実践を活用しない手はない」ということです。さらに「それに乗せできれば、より効果が上がる」ということです。

### AG5担当の佐々先生との 出会い

AG5プロジェクト④「補習授業校におけるバイリンガル・バイカルチュラル人材育成のためのプログラム開発」（以下、補習校チーム）における運営指導委員会の担当は佐々信行先生です。

佐々先生には、私が二〇〇七年から二〇一一年にニューヨーク日本人学校に校長として赴任していた際、現地でお会いしていました。当時、佐々先生は啓明学園の校長をされており、日本人学校で行われた学校説明会で啓明学園の紹介をして下さったのです。

今も変わらない物腰の柔らかさとお話の上手さは学習活動計画作成・授業研究会に関わる方々だけでなく、補習校チームの情報交換会等々に参加されている皆さん全てがご存知の通りかと思いますが、私は十年以上前から、その人柄と「佐々」というお名前が印象に残っていたのです。その後、海外子女教育振興財団に移られた佐々先生にAG5でお世話にな



プリンストン補習授業校での佐々先生による研修会

るとは思ってもみなかったことでしたが、私にとっては渡りに船だった訳です。

二〇一九年の春、佐々先生がダラス補習授業校での研修会に出張で来られること、その後、ワシントンの補習授業校を回られるという情報が入りました。そこで是非、プリストン補習授業校も訪問していただき、頑張っている子供たちや先生方の様子を見ていただけないかとお願いしました。当校の授業日が日曜日というのが功を奏して、何とかスケジュールを調整していただき、学校訪問が実現できたのです。

佐々先生には校内視察に加え、授業参観もしていただきました。中三の教室では生徒の発表に対する意見を求められる場面もあり、和気あいあいとしたひとときになりました。放課後は先生方向けに直接、海外子女教育振興財団やAG5などについて

て説明してもらいました。

佐々先生の説明は穏やかな口調ながら、補習授業校の先生方を直接応援したいという思いが伝わってきました。会議室の大型スクリーンに海外子女教育振興財団のホームページを投影し、実際にAG5のサイトにアクセスして画面上に資料を呼び出して先生方に示したりしながら、その取り組みや価値について分かりやすく話していただきました。

先生方からは、直接運営し、作っている先生の話ということもあり、「このように授業に役立つ資料が提供されていたこと、また財団のサイトがこんなに使い易いものであることが理解できた、有意義な研修になった」との感想が聞かれました。その後、先生方にとってAG5はさらに身近なものとなったのです。

### ダラス補習授業校での合同研究会

その夏、AG5の合同研修会がダラス補習授業校で行われることになっていました。そこにはプリンストン補習授業校の担当の三人の先生の中から一名が参加し、その成果も帰る予定になっていましたが、都合が悪くなり、他の二人の先生も予定が合わなかったため、委員の一人



ダラス補習授業校でのオンラインを駆使した合同研究会

でもあった私が急遽、参加させていただくことになりました。

当時のダラス補習授業校の宮地仁校長先生は私と同期の派遣でよく知った仲でした。事前に校内研修会の様子なども伺ってはいましたが、借用校の一室で行われた合同研修会は先生方の熱気にあふれていました。講師として岡村郁子先生、近田由紀子先生が参加されました。

全体会では最初に校長の挨拶がありました。正面のスクリーンには、東京からリモートで佐々先生が参加されていて、佐々先生からもお話がありました。

この頃は、それほどオンラインでの研究会参加がメジャーではなかったのですが、これは活用できるなど感じました。正に新型コロナウイルス感染予防で多くの学校が閉鎖を余儀なくされる半年前のことでした。

研究会では、佐藤恵美研究主任が中心となって最初の発表が行われ、その後、授業技術ワークショップが行われました。補習授業校で効果が発揮できる内容でした。そして、グループ懇談では分科会に分かれて情報・意見交換が行われ、有意義な研究会となりました。ダラス補習授業校は比較的規模が大きいとはいえ、研究組織がしっかりとっていて研究部を中心に推進されていることなど、見習うことが多いと思いました。

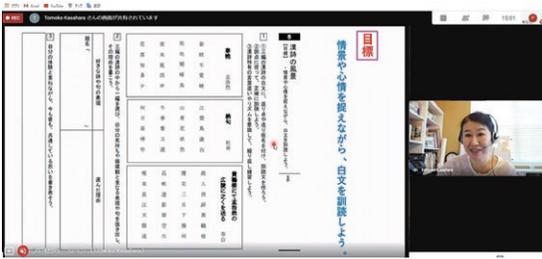
### プリンストン補習授業校(日本語学校)での授業

プリンストン補習授業校ではAG5担当の三名の内、二名の先生方には先に校内研究で研究授業を行ってもらいました。その後、新型コロナウイルスの關係で、担当の一人であった笠原朋子先生の研究授業は繰り越される形になりました。

二〇二〇年四月には授業が行えない状況となったため、子供たちの学習環境を整えようと、五月から教師が一日分の学習計画を立て、具体的に課題を与える形の「学習サポート」による授業を開始しました。その後、一部オンライン授業を取り入れた「学習サポート」に移行しました。そうした中で、AG5の学習活動

計画及び研究授業が行われることになり、笠原先生に補習授業校ではあまり実践事例がなかった国語科「漢詩」についての授業をしてもらうことになりました。漢詩を扱うことは補習授業校の生徒にとってはややハードルが高いと思われましたが、笠原先生の緻密さとアイデア、計画的な準備でいい授業になるのではないかと考えました。

AG5運営指導委員会の担当は岡村先生と雨宮先生でした。研究授業の二か月以上前に笠原先生から学習指導計画及び指導案が出され、それを四人で検討しました。さらに十一月一日にはAG5補習校チームの先生方に加えて、二十名以上の補習校の先生方が参加してZOOMによ



プリンス頓補習授業校での笠原先生による漢詩の授業。三編の漢詩を示し、自分の好きな詩・表現とともに今昔に共通する思いを考えさせる。

るオンライン検討会が行われ、生徒たちがより興味をもって取り組めるよう話し合いました。

補習授業校の校内研修会では、全体の協議会を除き、事前の分科会は数名が限度です。しかしAG5の検討会はAG5の講師の他に、日々同じ悩みをもつ多くの先生方から「自分だったらこうしてみようかな」という率直な意見が出されるので、今までの成果に裏付けされた、よりレベルの高いものを創ることができているのが大きな強みです。あとは、クラスの実態や生徒たちの状況を考慮して展開すればいい訳です。

研究授業の本時は「情景や心情を捉えながら、白文を訓読しよう」という目当てでしたが、生徒たちは白文に返り点や送り仮名を付け、自ら訓読文にすることで、中国(唐)から伝わった漢詩を、どのように日本語として読み味わってきたのか、古人の工夫に触れることができました。

なお、授業で使われたワークシートはAG5のウェブサイト (<https://ag-5.jp/report/theme4/study/detail/125/>)にあるので参照して下さい。学校の実態により軽重つけて取り組ませてもいいと思います。多くの先生方の実践により普遍的な授業になっていくと思います。

## 補習授業校情報交換会

補習授業校は、それぞれの学校の設立経緯や運営の考え方等により、「補習授業校」という名前は同じでも一校一校が全くの別物であると言っても過言ではありません。またそれぞれの学校ごとに、文部科学省からの派遣教員がいたりいなかったりする上、先生方の雇用や契約の状況によっても立場は違います。ただ「子供たちによりよい教育を行いたい」という願いは同じです。

二〇一九年度末から、コロナ禍に伴い、地域の施策や借用校等の状況により、補習授業校も休校等の対応を取らざるを得なくなり、大きなダメージを受けました。そうした中、全ての補習授業校の、希望、となったのが、AG5補習校チームです。情報交換会は二〇二〇年の四月から始まり今も続いています。テーマは「学校運営」を始め、様々な立場の先生方が具体的な課題を解決できるように設定され、しかも実用的な内容なので選択の幅が広く、参加不参加についても特に制限はないので、気軽に参加することができます。

コロナ禍でオンライン会議が当たり前になりました。情報交換会で画面に映る先生方は国・地域や学校は

もちろん立場も違います。先生以外の学校関係者が参加する場合もあります。参加者が一つの画面にランダムに並び、時空を超えて同じテーマに向かつてアイデアを出し合うのはとても素晴らしいことだと思えます。対面での会議ではなかなかできなかったことです。ともすると一校だけの考え方に陥りがちですが、他を知ることで自校の課題が見えてきて解決に繋がる可能性もあります。

参加者みんなでよりよいものを創り上げていくことが情報交換会の利点でもあります。まずは興味のあるところから参加して、やがてその中心になっていくことも今後の発展に向けて大切なのではないのでしょうか。補習校チームでは、「情報交換会」の他にも先に触れた「学習活動計画作成・授業研究会」や「初任者研修会」等の事業を行っています。私も今回、縁あつて運営のお手伝いをするようになりましたが、やはり自分から関わり、広げていくことが大きな力になると思います。

AG5のサイトを活用してください。さらに、できる範囲でAG5の取り組みに参加してみてください。私たちは全ての補習授業校が子供たちのためによりよい成果を上げることができるよう願っています。